

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0806 ◆◆◆

24/09/11

【 混迷深める日米政治情勢、自民党総裁選の行方は!? 】

改めて指摘するまでもなく、日米政治情勢が混迷の度合いを深めている。政治の世界は「一寸先が闇」と言われるが、確かに少し目を離しただけで、猫の目のように様相がコロコロ変わり状況を見通すことが本当に難しい。

しかしながら、誰が次期米大統領、そして自民党総裁に就任するのか、それによっては為替をはじめとする金融市場においても大きな影響を与えることは間違いないだろう。今回はそのうち日本の政治情勢、自民党総裁選について簡単にレポートしておく。

◎高市氏以外が自民総裁・新首相となれば「円高」有利!?

本稿執筆段階、まだ正式に出馬表明していない方もいるが、巷間に取り沙汰されている「次期総裁候補」は 12 人と言われている。また、それ以外でも出馬に意欲を見せているとされる方も数人いるようで、乱立の様相を呈していることは間違いない。

ただし、正式な告示日が今週 12 日であるため、予断を許さない面もあるものの、20 人の推薦人を集められないなどの理由で数人が断念。最終的には 10 人程度に絞られる見通しだ。

そうしたなか、各種世論調査の結果などを参考にすると、知名度を生かした石破茂元防衛相、小泉進次郎元環境相、高市早苗経済安全保障担当相――が 3 強と見られ、それに河野太郎デジタル相、小林鷹之元経済安全保障担当相が続く格好と言ってよい。

先で指摘したように、政治の世界は「一寸先が闇」と言われるだけに大逆転も否定はできないが、基本的には上記 5 人の中から、次期自民党総裁が決まる公算が大きいと考えられている。

それ以上の絞り込みは現状非常に難しいが、今回取材した政治家秘書は「政治家は結局のところ、自分が当選を果たすことが一番大事」としたうえで、「最終的には政策や人柄以上に、『党の顔』としてその後の選挙戦を戦えるかどうか、『選挙に勝てる人物』が判断基準になる」と指摘していた。

とするなら、思わぬ名前が土壇場で急浮上することもありうるか。

また、それとは別にかつて野党に所属していた元政治家のひとりには、「色々な問題を抱えている自民党が変わった、刷新されたということ国民に強くアピールするには石破氏や河野氏では弱い。旧態依然で自民党は何も変わっていないと思われる可能性もある」と述べたことに続けて、「刷新イメージを打ち出すなら、『女性』あるいは思い切った『若手』の登用もある」との持論を指摘していた。

ちなみに、具体的な名前を挙げることはしなかったが、上記の考えから推察すると「女性」枠で高市氏もしくは上川氏、「若手」枠で現在まだ 40 歳代の小泉氏、小林氏あたりを、もしかしたらイメージしていたのかもしれない。

一方、各候補者による金融を中心とした政策に目を向けると、とくに目を引くのが石破氏の論調だ。

8 月 7 日発売の著書において、まずは「異次元の金融緩和の長期化で国の財政と日銀の財務が悪化した」と指摘。また 7 月 27 日の講演会で、為替市場についても当時の円安を『円弱』だと指摘して是正を訴えたほか、金利を上げる必要があると主張していたことが明らかになっている。前記した「3 強」の一角である石破氏が自民党総裁、そして次期日本の首相となった場合に為替市場は、さらなる利上げとともに円高が進行する可能性もありそうだ。

また、河野氏もそののち釈明しているが、7 月 17 日に「円安是正のための利上げを日銀に求めた」と報じられ物議を醸したことは記憶に新しい。これからすると、石破氏とともに円高論者とも考えられる。

さらに、候補者のひとりに名をつらねる茂木敏充自民党幹事長も根強い金利引き上げ一派に属することから、為替も結果として「円高を望む」傾向であるのかもしれない。

それに対して、「若手」枠の小泉氏と小林氏からはこれといった金利や為替についての発言が確認されおらず、正直よくわからない。今後の議論を含めた、政策的な発言を待ちたいと思う。

